



アベノミクスとグローバル経済への合流

令和6年6月26日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

アベノミクスは、国内経済が、その独自経済圏において自己を有する過去から、完全にグローバルイズムに組み込まれる結果を与えた。これらは完全な国内の独自社会とシステムの崩壊と転換がなされているのである。

日本は独自システムを、明治政府の樹立から行なったものである。それらは完全にグローバルスタンダードに対峙し、既存現実の完全な転換がなされているのである。

これらは経済戦争における敗戦は完全なものであり、通貨価値に如実に現れるものである。

一つ留意すべきは、それらグローバル環境への融合は、アジア諸国が日本へ新たなアクセスを与えていることである。

これらは、アメリカへの一辺倒な従属という他方の現実に対して、アジア諸国が新たな自己プレゼンスをその時代変化とともに有することに対して、日本の社会と現実への価値を明確に求めていることを理解すべきである。

これらは世界における新しい資本の潮流を理解するとき、資本が集中する地域が未来を担うことは過去から同じなのである。

これが、資本が新しい現実を生むことという真実なのである。これら資本の移動が、通貨価値の決定を与えるのである。

これは資本の動きが、未来の予測を与えることの真実なのである。資本は確実な安定においてその移動を得るのである。

また世界の先端知的集積産業は、唯一市場を牽引する正しい基準なのである。

これらは経済の実像であり、正しい判断は唯一未来を可能とする選択なのである。